

# 大 白神教育研究棟が完成 弘 4部門中心に地域貢献

西目屋村の弘前大学  
白神自然環境研究所で

2日、教育研究棟が完成、竣工記念式典が開かれた。世界遺産白神山地の核心地域に近い同研究所が、動植物など自然環境の教育研究拠点として整備した。式典には弘大や西目屋村などから関係者約70人が出席し、教育研究棟の完成を祝い、看板の除幕式などで今後の発展に期待を寄せ



看板を除幕して完成を祝う遠藤学長  
(右から2人目)ら

てで延べ床面積約210平方メートル。研修室や共用に着手、木造2階建。同実験室、教員の研究

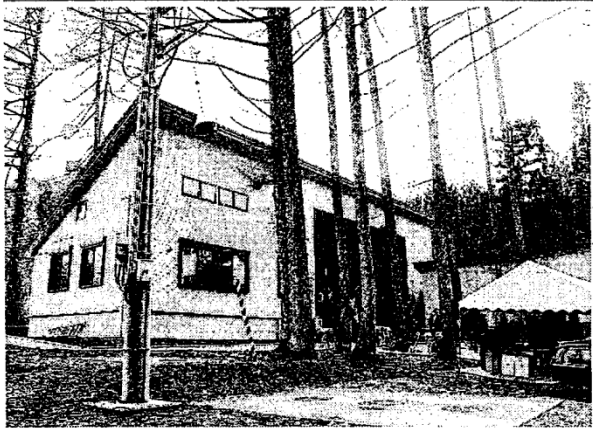
・実験室のほか、トイ学長は「教育研究の成果を上げることも、一般に開放されること」を期待している。「動物」「植物」「気象」「教育・文化」の4部門を中心に地域貢献の場としても活用する。

辞に続き、佐々木市長が概要を説明した。参加者が見守る中、遠藤学長、長利教育長、佐々木研究所長、地権者の齋藤行正さんが看板を除幕して建物の完成を祝った。

## 白神研究より活発に

弘大 西目屋で新施設完成

弘前大学白神自然環境研究所の教育研究棟が完成し、2日、西目屋村の同施設で記念式典が行われた。教育研究棟は昨年開



完成した教育研究棟

園した約18畧の白神自然観察園に隣接し、木造2階建て約210平方メートル。専任教員の研究室3室や共同実験室に加え、簡易宿泊施設も備えている。理工学部の寒地気象実験室や、積雪重量計と雨量計を備える気象観測塔を設置している。

施設では専任教員が白神山地の動植物の研究を進めるほか、小学生の見学を受け入れ、地域住民向けの公開講座の実施も予定している。

式典には大学関係者や地域住民ら約60人が出席した。同大の遠藤正彦学長が「施設の完成により研究が活発に

なり、地域住民の生涯学習の場や、小中学生の理科離れ対策の一助となることを期待する」とあいさつし、佐々木市長は「学内外の研究者や施設と連携し、地域貢献に配慮して研究を進めていく。皆さんのご協力をお願いしたい」と述べた。

平成22年12月3日(金)  
陸奥新報社 (5)